

ぷらい

2018 summer  
vol.5

公益財団法人 PHOENIX  
木材・合板博物館情報誌

写真：小澤酒造株式会社

# P L Y

木と人の素敵な出会いを探る

巻頭インタビュー ■ 「重ねる」  
第5回 小澤酒造株式会社

取締役社長 **小澤順一郎**

木漏れ日散策 03

東京大学大学院農学生命科学研究科  
社会人特別選抜 修士課程「木造建築コース」

木を楽しもう 05 東京大学五月祭 セルフビルド木質建築物  
東京大学大学院 木質材料学研究室 教授 稲山正弘





# “ 関東の食と自然が育む ” 東京最古の地酒



公式な襲名をしていないので申し上げる資格はありませんが、近くにある「雲慶院」は、うちが甲斐国から逃れてここに来て後、滅亡した武田の菩提を弔うために作った寺だそうです。そこのご住職が私の親父に「私が21代だから、あなたも21代でいいでしょう」とおっしゃった。以来、親父が21代目、私は22代目と言わせてもらってます。酒蔵としては、うちに残る最も古い資料が元禄15（1702）年のものなので、それをもって

酒蔵としては300年の歴史とのこと。小澤家は社長で何代目になられるのでしょうか。

## 家業の継承は、まず資産を守ること

創業の年としていますが、東京では最も古い酒蔵になるらしい。武田の残党の血筋なので、それ以前のはっきりとした資料は残っていないんですよ。

私自身は大学で経営学を学んで、卒業後は埼玉の新座にあった材木問屋にしばらく勤めました。奈良県吉野のいちばん大きな製材所の販売店です。なぜかって、うちのような家業の長男の仕事は商売よりも、まず資産管理なんです。うちの資産と言ったら山林です。木を知らなきゃ管理ができません。酒造りはそれを学んでからということですよ。



第5回

## 「重ねる」

ka·sa·ne·ru

# PLY

巻頭インタビュー

あなたの家のお雑煮は、どんな味ですか？  
家では当たり前のお雑煮が、じつは、まったく当たり前ではない。そこに、日本の食文化の豊かさがあります。食通たちが、地酒の豊かさを発見し海外における「SAKE」ブームもあっていま再び、日本酒が注目を浴びています。あらゆる文化を飲み込んできた東京の山里で300年にわたり酒を造り続けてきた小澤酒造に、その酒の源をうかがいました。

## 小澤酒造株式会社 取締役社長 小澤順一郎





元々は、酒造りではなく林業を生業としていたのですね。現在も山林の仕事はしているのですか。

結果的に酒造りが看板になったけど、最初は二次的なものだったんですよ。山は200haほどありますが、現在は林業経営と言える状況じゃありません。間伐主体の次につなげるための管理の仕事がほとんどですね。

ただ、私の末娘が植物好きで、勤めていた造園会社を辞めて林業をやると言い出した

んで、とりあえず、この後も続くかなと思っ  
ています。いま、うちの山を管理している70  
歳近い山の神さまに弟子入りさせてね(笑)。  
GPSを使って管理ができるようにすれば、  
実際の作業は人に任せればいいし、娘には  
杉檜に限らず好きな山づくりをやっている  
と言っています。最近では観光林業のよう  
なかたちで運営されている山もあるし、結果  
的にどんなかたちで実を結び地域貢献でき  
るかっていうことを考えてくれればと思っ  
ますね。

## 木桶でよみがえる“神さまの酒造り”

山林と酒造りというのは、やはり関係が深いのでしょうか。

「樽丸」って言葉を知ってますか？ 樽の側板になる材のことで、それを組んで樽にする。運ぶときに竹の輪っかに詰め込んで、丸くまとめたから樽丸って言うんです。昔は、酒や醤油はみんな樽で運んだから、そうしたものがづくりも大きな産物だったんですよ。

さんがいた。樽は産地から仕入れてました  
が、蔵で使う桶や道具は、みんな木製でし  
たから、その整備をしていたんです。お酒  
の仕込みも昔は杉の桶でした。

最近ではステンレスのタンクが多いそうですが、小澤酒造では、いまでも木桶でお酒を造っているそうですね。

奈良県の吉野などは、質のいい樽丸の生産を目指した結果、日本有数の林業地になったんです。うちでも私が子どもの頃は会社の中に桶屋

うちでもメインではステンレスや珪瑯のタンクを使っていますが、15年ほど前に杉の桶を新造しました。じつは、その当時、長野の蔵元に入って「木桶仕込み保存会」を立ち上げたセラ・マリ・カミングスというアメリカ人女性がいて、彼女から木桶でお酒を造



ろうと誘われて気には留めていたんです。そんな時、うちの裏手のケヤキの大枝が台風で道路に落ちてしまった。危ないの古い枝や木を伐ろうということになり、その中に樹齢300年ほどの杉の木があった。そこで、これで桶を作ろうと考えたわけです。ところが、木桶で酒を造ると言ったら、杜氏が猛反対した。確かに、

酒造りの要、仕込み水も山からの恵みですね。どういう水を使っているのですか。

ステンレスのタンクなら0.1℃単位で中の温度を管理できるから、自分がイメージした酒が造れますが、杉桶は材料を入れたら後は桶まかせ。自分の思い通りにはならないんです。でも、それが「酒造りは神さまの世界」であり、人間が管理しようなんて傲慢なことだと教えてくれるんですよ。だから、「まずくなってもいいから造ってくれ」と言っ  
たんです。

それで、できあがった酒を飲んだらじつに旨い。杜氏も「この酒には酒造りの、いろは“がある”ってしみじみと言うんですね。そこで、「彩は」という名前を出すことにしました。造るたびに味はまちまちですが、いろいろな発見のあるお酒です。酸味や旨みが濃く、肉にも負けない、ワインで言えばフルボディの赤のような重厚なタイプのお酒です。



蔵の奥には創業時から使う横井戸があり、ミネラル豊富な硬水が絶え間なく湧き出ている

うちが昔から使ってきた水は蔵の北側の山から来ている水脈です。このあたりは昔から石灰が採れたんですよ。青梅線も石灰を運ぶために通した鉄道だし、江戸城の石灰も青梅街道で運んだ。石灰が採れるということでは、ミネラルの多い硬水の地ということですね。ミネラルが多いと酵母が活性化してブドウ糖をたくさん食べるから、辛口の酒になる。うちの酒が辛口なのは、そういう要因もあるんです。辛口と言えば、灘の宮水は有名な硬水です。それに対して、京都の伏見は軟水だったからソフトな甘口になったと聞きました。

そして、30年ほど前に多摩川の対岸の山の水を引くことに成功しました。良質な軟水です。これも山の管理をしてきた結果ですね。この水を使えるようになって、酒造りの幅も広がったと思います。

杉の仕込み桶は直径約1.8mの6尺桶が2つ。年輪にそって割った側板を、内側が赤身(心材)、外側が白太になるように組むとアルコールを通さず良い仕込み桶となる。ちなみに、桶はふたが外れる容器。樽はふたをはめ込んで密閉した輸送用の容器を言う。







30年ほど前に引いた軟水の仕込み水は訪れた人のども潤す。



酒蔵の周りにはオープンテラス、食事処や喫茶処、多摩川を望む遊歩道や美術館などもあり、青梅有数の観光名所ともなっている。



## 地酒で愉しむ、食文化が育てた個性

そうして造られる小澤酒造のお酒。社長は、どんなお酒だと思われませんか？

そもそも酒というのは嗜好品ですから、優劣を測れるものではありません。とにかく自分たちの酒の有り様を決めて努力するしかないんですよ。

かつて、日本酒には1級酒、2級酒っていう格の違いがあった。味の良し悪しは別として、贈答用には1級酒という時代があったんです。ところが、級別制度の廃止もあって、徐々に酒を格付けでなく個性として楽しむようになってきた。そこで花火のように打ち上がったのが地酒ブームです。

当然うちも、東京の地酒、奥多摩の酒として存在を主張しなければならなくなった。その時、一番人気だったのが淡麗辛口の新潟の酒だったんです。関東の酒蔵はうちも含めてどこも越後杜氏ですから、越後杜氏の酒の味には馴染みがある。それでも新潟の



酒とは違う。もつと“味”があるんです。じつは、新潟の淡麗辛口の酒は塩と相性がいいんです。塩を舐めながら飲むと酒が甘く利けておいしいんですよ。雪国では塩蔵した野菜や、焼くと塩を吹くくらい辛い塩鮭と飲むわけです。だから、ああいう酒になる。やっぱり食文化なんですよ。

たとえば、四国。四国山脈を境に太平洋側はカツオを食べる。にんにくや生姜を入れて味の強い醤油と食べるわけ。その酒はって言うと、新潟と同じ淡麗辛口でも、鈍（なま）です。カツオに負けない強さが必要なんです。それに對して新潟の酒は“かみそり”。シャープさの質が違います。一方、四国でも瀬戸内海側は白身の魚を食べるから、酒も上品でほわんとやさしい味になる。

地域ごとの食文化の中で育った個性が、地酒ブームのおもしろさだったということなんです。

東京の食文化、東京のお酒の味という、具体的にどんなものですか？

東京の生活の中心となる食材って何だろうと私も考えました。そこで思い浮かんだのが「ちよっと、お醤油取って」っていう感じ。江戸前の醤油に砂糖を少し入れた甘辛い味。かつ井のつゆ、佃煮もそう。あれが関東の味の基本かもしれないと思ったんです。それには、新潟ほど淡麗ではなく、辛めだけでももう少し旨みがある酒が合う。いわゆる東京国税局管内の東京、神奈川、千葉、山梨という1都3県や、その近隣は同じ醤油文化の酒でしょうね。一方、京都の酒は、料理が相手です。京料理の出汁のほのかな旨みが口中に広がったところに、柔らかな甘口の酒がつうつと入って一体となるのがおいしいわけ。

基本的に酒は杜氏が造るものです。経営者の私が見れば、杜氏は私の顔を見て造る

ようになる。それじゃ、いい酒にはならない。理想の酒は、造り手の心の中にあるんです。それを目指して造れば、苦しいけれど非常に奥の深いものができるはずなんです。そうは言っても、良い酒ができれば杜氏はニコニコして私の所へ持って来るし、旨ければ私も嬉しい。それが理想の酒造りじゃないかと思えますね。

取材を終えて・・・

「澤乃井」と言えば東京の地酒として有名ですが、東京っ子には奥多摩の行楽に外せない観光スポットでもあります。新緑や紅葉を愛でつつ食事や日本酒を楽しむ遊び心と、元禄から使い続ける酒蔵で寝かせた古酒、木桶造りの酒、精米度90%の江戸時代を再現した酒など、伝統の中に挑戦も忘れない東京の酒造りを誇らしく思いました。ふんわり香る酒蔵で、貴重なお話しと旨いお酒を堪能した春の1日でした。

### PROFILE

小澤順一郎 (おざわじゅんいちろう)

小澤酒造株式会社 取締役社長

1954年、東京都青梅市沢井に戦国時代から続く小澤家の長男として生まれる。1977年、成蹊大学経済学部経営学科卒業後、材木問屋に約2年半勤め、その後、家業の1つであった製材会社に勤務。同時期に本業である「小澤酒造」に入り、酒造りと周辺の施設経営に携わる。1992年に、取締役社長に就任。

小澤酒造株式会社

東京都内に残る蔵元のなかでも最古と言われ、元禄15(1702)年、当時の古文書に酒造業を営んでいた記述から、それを創業の年とする。1960年代より酒蔵見学を開始。「お客様との直接のふれあい」を掲げ、日本酒とともに仕込み水で作った豆腐や食事を楽しむ施設などの運営や、地元ゆかりの日本画家 川合玉堂の「玉堂美術館」や「榎かんざし美術館」など地域文化の振興にも力を入れている。

<http://www.sawanoi-sake.com/>





製作年度/作品名/設計者

- A 2005 / カラメンアーチ / 稲山正弘
- B 2006 / ベンローズドーム / 小林研治
- C 2007 / the Nave / 後藤豊・坂根宏彦
- D 2007 / WR-system / 宋昌錫
- E 2008 / E-CHO / 藤田克則
- F 2008 / Inlay Joint System / 山口和弘
- G 2009 / Wing Arch / 木本次憲
- H 2009 / #gradient / 山口和弘
- I 2010 / SEPPA / 蒲池健
- J 2010 / WOOD BREEZE / 村上素子
- K 2012 / 木のつばり / 福山弘
- L 2012 / サトウ茶筌 / 佐藤実
- M 2013 / 万華箱 / 秋山信彦
- N 2013 / 木縁 -mokufuchi- / 堀越ふみ江
- O 2014 / コモレビフォーリー / 坂田涼太郎
- P 2014 / rafflesia dome / 中太郎
- Q 2015 / UROKO / 未定拓時・辻繁輝
- R 2015 / edge / 佐々木賢太
- S 2016 / tsutsutsumi / 未定拓時
- T 2016 / 舞 -mai- / 中川香子
- U 2017 / torch / 落合陽
- V 2017 / cubic room / 杉野貴彦
- W 2018 / 漣 / 瀬口翼
- X 2018 / Casa returns / 三宅朗彦



# 木を 楽しもう

05

## 東京大学五月祭 セルフビルド木質建築物

東京大学 <https://www.u-tokyo.ac.jp>  
 本郷キャンパス  
 〒113-8654 文京区本郷 7-3-1 tel.03-3812-2111

【東京大学五月祭】大正12年5月5日に行われた第1回大園遊会が起源とされる歴史ある学園祭で、5月中～下旬の土・日曜日に、本郷地区キャンパスで開催されます。



ともに、構造的に安定したものにできるか、加工や施工が学内の道具を使って素人だけでできる範囲内かどうか、といった点が、最終決定案の勝敗を左右する要因となっている。この五月祭プロジェクトを通して、設計から加工および施工までのプロセスを経験することで、製材、集成材、LVL、合板、OSB、CLTなど種々の木質材料の特性を活かすための技術について、実用的な感覚を身につけることができる、活きた教育活動として実践してきている。

東京大学大学院 木質材料学研究室 教授 稲山正弘

東京大学木質材料学研究室では、毎年、東大の学園祭である五月祭に、木質材料で構成された実大（人が入れる位の大きな模型）の仮設建築物を学生たちのセルフビルドで建設している。これは、五月祭の二日間の期間中のみ仮設の展示空間・休憩スペースで、木質材料を用いて学生たちによる人力施工だけで、五月祭前日の1日で組み立て可能、という条件によるものである。製作物の選定方法は、材料や接合方法を指定した課題に対する設計コンペを行って、研究室全員の投票により一等（および二等）になった案を実際に自分たちで製作することとしている。したがって、アイデアの秀逸さやデザインの美しさと





# 木漏れ日散策 …… 03



東京大学大学院農学生命科学研究科  
社会人特別選抜 修士課程「木造建築コース」

東京大学大学院農学生命科学研究科 <http://www.a.u-tokyo.ac.jp/>  
〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1



社会人特別選抜「木造建築コース」は、建築に携わる方に木材ならびに木造建築に関する知識を、木質系材料の製造等に携わる方に建築サイドから要求される性能等に関する知識を習得してもらうことを主眼とした、大学院の修士課程コースです。本コースは、2005年からスタートし、現在までで50名以上の卒業生を輩出してきました。

そのカリキュラムは、座学系の木質構造学・木質材料学・耐久性の科学などと、実習系の建築事例研究・建築設計演習などが組み合わさった内容となっております。従来の修士課程よりも講義時間を増やしています。また、講義は仕事との両立をしやすいように、基本的に集中講義形式となっております。週に一度ゼミがあり、その時は教員や一般学生を交えて、自身や他のメンバーの研究について討論を行います。多彩な研究室のメンバーと様々な側面からの意見交換できるのが、他の研究室にはない特色となっております。

木造建築コースの学生も修士論文研究を行うことになっており、それらは実務よりの応用研究が多くなっています。研究テーマの一部を紹介すると、

- ・木造建築物を対象としたロックキング制震システムの研究
- ・一般流通材を用いた方杖付きラーメンフレームの研究

- ・構造木工事監理マニュアルの研究
- ・一般流通材により構成されたストレススキンパネルを用いた効率的な床組の研究
- ・住宅用プレカットを用いた国産スギによる屋根トラス架構の研究
- ・鋼板挿入ドリフトピン接合を用いた木質ラーメン柱脚の構造性能評価法に関する研究などがあります。

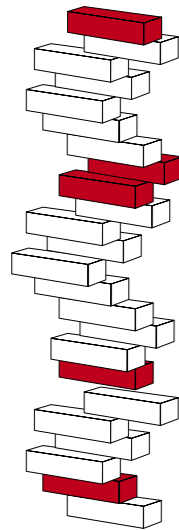
大学院修了後には、東京大学大学院修士（農学）の称号が授与され、様々な分野で活躍しています。







## イベント情報

Event  
schedule

第10回「木と合板」写真コンテスト

募集期間：7月1日～8月31日

<http://www.woodmuseum.jp/photo-con/index.html>

2018年 7.21(土)



夏休み 合板・LVL 工場見学&amp;工作体験

申込受付期間：6月1日(金)～7月8日(日)

<http://www.woodmuseum.jp/workshop/tour.html>夏休みの木工教室  
\*予約抽選制

申込受付期間：6月18日～7月6日

<http://www.woodmuseum.jp/workshop/mokkou.html>

7.22(日)



コリントゲームをつくろう!

7.28(土)



ジグソーパズルをつくろう!

8.5(日)



コリントゲームをつくろう!

8.18(土)



ジグソーパズルをつくろう!

8.24 → 25



ジャパン建材フェア(東京ビッグサイト)

<http://www.jkenzai.co.jp/jkfair/about/>

\*イベント情報はホームページでご確認ください。

[お問い合わせ] 木材・合板博物館 TEL 03-3521-6600 / FAX 03-3521-6602 E-mail [info@woodmuseum.jp](mailto:info@woodmuseum.jp)

## REPORT

## 森のめぐみに感謝する会



5月21日、晴天の青梅市内で「森のめぐみに感謝する会」が50名程の参加者を得て開催されました。植樹祭としてご案内をしたイベントでしたが、実際には足元が滑りやすいこと、マムシやハチがいる可能性があること、さらに数日前に近くでクマの目撃情報があったということで、植林体験は実施されませんでした。しかし、地元を中心に森の演出家として活動されている土屋一昭氏の案内で鳥の声に注意を払いながら新緑の森で森林浴、本誌巻頭インタビューに登場いただいている小澤酒造の小澤順一郎氏による林業と地域活動の紹介などのセミナーに耳を傾け、鏡割りで使われるスギ樽の木の使い方などを学びながら、利き酒を堪能しました。森と水、そして木材利用、日本酒の奥深さなど目と耳と香りと味と触覚を含めて五感を目覚めさせるには十分な一日でした。都心から1時間ほどの東京都内にもかかわらず、自然を楽しむことのできる多摩の環境は参加者に笑顔をもたらしたように思います。( & )







木材科学講座2  
『組織と材質』第2版  
古野毅・澤辺攻 編 A5判/190頁  
1,845円(本体)

樹木の形成から、針葉樹材・広葉樹材の細胞の種類と構成、あて材・節などの異常組織、付録では樹種の識別やプレバート作成など、木質の組成について豊富な図・写真とともに解説。好評教科書の改訂版。

海青社 TEL 077-577-2677 FAX 077-577-2688



『木材の塗装』改訂版  
木材塗装研究会 編  
A5判/297頁+カラー8頁  
3,500円(本体)

日本を代表する木材塗装の研究会による、基礎から応用・実務までを解説した書。会では毎年6月に木工塗装入門講座、11月に木材塗装ゼミナールを企画、開催している。改訂版では、政令や建築工事標準仕様書等の改定に関する部分について書き改めた。

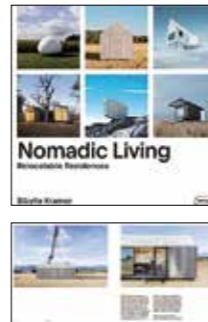
海青社 TEL 077-577-2677 FAX 077-577-2688



『Sustainable Architecture』  
Edited by The Plan  
出版社：Promopress  
7,500円(本体)

個人、企業、公共の分野にわたる21の現代建築作品を取り上げている。作品は、建築と環境との関係を重視しているもので、地球の「健康」だけでなく、建築の社会的および経済的影響にも配慮している。資料として写真、ドローイング、立面図を収録している。

エーアンドエーブックス TEL 03-3868-9560



『Nomadic Living: Relocatable Residences (English and German Edition)』  
By Sibylle Kramer  
出版社：Braun Publishing  
8,900円(本体)

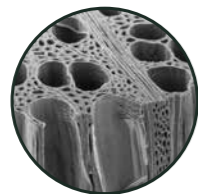
「移動可能」であることを基本に置いて生み出された住宅作品を取り上げ、技術および発想に焦点を当てながら、変化し、肥大化していく現代生活の様々なニーズをコンセプト、外観、構造においてどのように解決し、作品化しているかを資料とともに紹介する。

エーアンドエーブックス TEL 03-3868-9560

PLY 木の誌上展覧会 (裏表紙)

第5回 ■ 走査電子顕微鏡写真

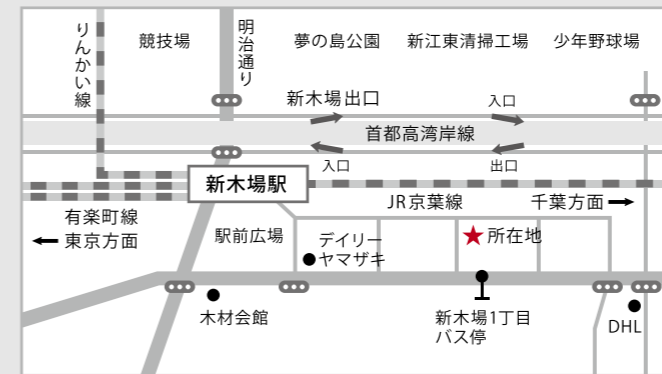
「ブナ」



ブナ科、ブナ属の広葉樹で日本の温帯落葉樹林を代表する落葉高木である。高さは30m以上にもなり胸高直径は1.5m近いものもある。九州から北海道まで広く分布するが、北限は北海道渡島半島の黒松内といわれている。ところが、札幌近郊の江別市の千古園などには樹齢が136年の立派なブナが生育しており(江別市の環境課調べ)、このあたりでは他にもかなりの数のブナが認められている。人工的に植栽されたものかなど詳細は定かではないが興味深い。ブナは組織構造に特徴があり、道管要素のつなぎ目部分のせん孔と呼ばれる穴が、年輪内の早材にあたる部分では単せん孔であるのに対して晩材部にあたる部分では階段せん孔であり、晩材部にあたる部分の道管の壁にはいぼ状層があるなど樹種識別するには分かりやすい樹種である。また、幅の広い放射組織を持つために特に柱目の木材表面では「虎斑(とらふ)」と呼ばれる白く光る模様が現れる。さらに丸太の心材を見ると、心材が縞模様や不規則な形になるなど偽心材とよばれるものがかなりの頻度で出現する。偽心材は、過去には樹病が疑われたこともあるがどうやら遺伝的なものであるらしい。など木材組織学的には極めて個性豊かといえる樹種であるが、漆器やテーブル、フローリングなど利用価値は極めて高い。表面が滑らかな肌触りなのは、小道管が散在する散孔材であることも関係している。

木材・合板博物館 副館長 平川泰彦

公益財団法人 PHOENIX 木材・合板博物館のご案内



【開館時間】10:00 ~ 17:00 (最終入館時間 16:30)

【入館料】無料

【休館日】月曜日、火曜日、祝日、年末年始

※幼児および小学生の入館には、保護者のつきそいが必要です。  
※都合により開館日・時間を変更する場合がございます。

【アクセス】① ●東京メトロ有楽町線 ●JR京葉線 ●東京りんかい高速鉄道  
「新木場駅」下車 徒歩7分

② ●東京メトロ東西線  
「東陽町駅」下車  
-----> 都営バス [②のりば] 木 11 甲  
「新木場一丁目」バス停下車 徒歩1分

facebook

HP



<http://www.woodmuseum.jp/>



このビルの  
3F・4Fです!

所在地：東京都江東区新木場 1-7-22  
新木場タワー 3F・4F

TEL 03-3521-6600 / FAX 03-3521-6602

mini 合板情報

05

日本の合板産業は、主に熱帯産丸太を原料にして発展してきました。わが国の合板産業は原料を熱帯産広葉樹から針葉樹へ転換を進め、2016年に針葉樹合板の生産量は国産合板総生産量の94%に達しています。日本で使用されている合板需要の国産合板比率も50%を超えていますが、約半分は東南アジアや中国で生産されたいわゆる「輸入合板」です。日本の植林木を主原料とした合板の製造販売を拡大していくことは、地域経済の振興に寄与するとともに、地球環境保護の視点から貴重な熱帯雨林の保護と生態系維持に貢献することにつながります。( & )

PLY 第5号 2018 summer

【発行日】2018年6月10日 ■定価:1,080円(消費税込)

【発行】公益財団法人 PHOENIX 木材・合板博物館  
〒136-8405  
東京都江東区新木場 1-7-22 新木場タワー 3F・4F  
TEL 03-3521-6600 / FAX 03-3521-6602  
E-mail info@woodmuseum.jp

【発行者】吉田繁

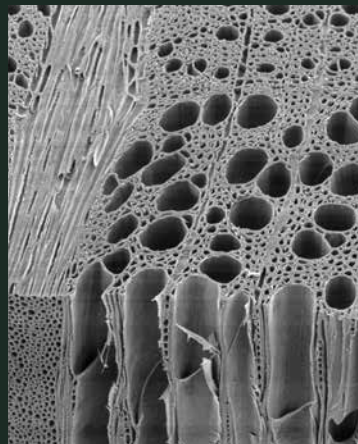
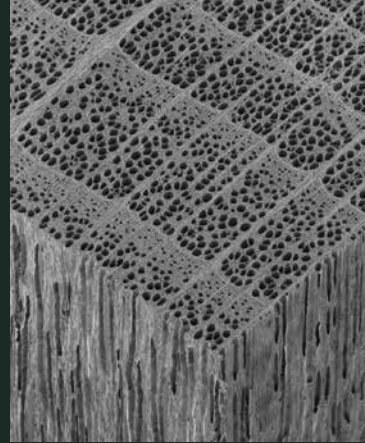
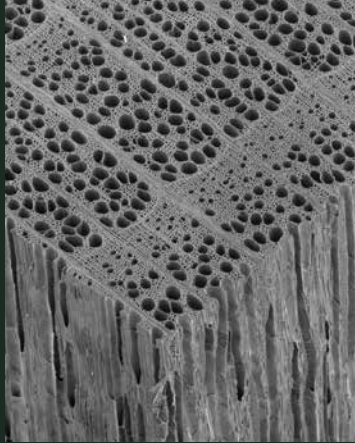
【編集】安藤直人(編集長)、山口和美(副編集長)、  
PLY 編集委員会

【デザイン】丸山佐知子

編集後記

SDGs (エスディーズ)はSustainable Development Goalsの略称で、世界が2016年から2030年までに達成すべき17の環境や開発に関する国際目標です。地球環境や気候変動に配慮しながら、持続可能な暮らしや社会を営むための、世界各国の政府や自治体、NGO、NPO、民間企業や個人などにも共通した目標です。目標15に陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復、および生物多様性の損失の阻止があげられています。森と水と木材の関わりを身近なところから見直して見ませんか?本誌では楽しみながら持続する取り組みを取り上げました。また、先号の編集後記で平成30年は昭和93年と書くべきところ83年と誤記してしまいましたが、昭和→平成→?へと移り変われど持続可能性の追求はこれからも最優先される課題です。( & )





## PLY (ぶらい)

PLYとは重ねるという意味があり、

WOODを加えると

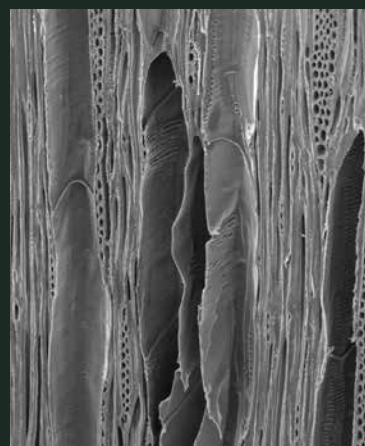
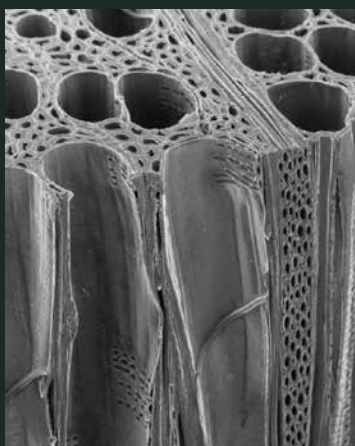
PLYWOOD (合板)を

意味している。

歳月や経験を重ねることの重要性と、

木材が年輪を重ねて

成長する姿も重ね合わせている。



## PLY 木の誌上展覧会

走査電子顕微鏡写真「ブナ」

写真提供：国立研究開発法人  
森林研究・整備機構 森林総合研究所

